

## 「妊婦への魚介類の摂食と水銀に関する注意事項」の見直しにあたっての 論点整理について

第1回、第2回乳肉水産食品部会での御審議を踏まえた整理すべき論点は次のとおり。

### 1. 妊婦における魚介類の有益性について

妊娠している方及び妊娠している可能性のある方（以下「妊婦」という。）の魚介類（鯨類を含む。以下同じ。）の摂取についてどのように考えるか。魚介類は健康的な食生活を営む上で重要な食材であり、妊婦にあっても一定の注意事項を遵守しつつ魚介類を摂食することによって、メリットを得ることができると考えられるのではないかな。

#### （参考1）食品健康影響評価書

n-3系多価不飽和脂肪酸をはじめとする魚の摂食による栄養学的なメリットがあることを忘れてはならない。つまり、メチル水銀濃度が高い魚を多量に食べることを避けることで、魚食のメリットとメチル水銀摂取量の低減を両立することができる。

#### （参考2）米国の表現方法

魚介類の選択及び摂食に関する勧告に従うことにより、女性と幼児は魚介類摂取の利益を得ることができる

(By following recommendations for selecting and eating fish or shellfish, women and young children will receive the benefits of eating fish and shellfish)

### 2. 懸念される水銀の影響の記載について

疫学調査結果等から懸念される水銀の悪影響をどのように分かり易く記載するか。胎児にわずかな影響を与えることを懸念していることを、分かりやすく伝えることが必要ではないかな。

### 3. 対象者の明確化について

平成15年6月3日に公表した「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」では、その対象を「妊娠している方又はその可能性のある方」としたが、今回の注意事項の公表にあたっては、対象者が限定されていることをさらに明確にするものとして、どのようなものが考えられるかな。

(例) 各国の対象者の表現方法

- ・ 日本（食品健康影響評価）：妊娠している方もしくは妊娠している可能性のある方
- ・ 英国：妊婦や妊娠を予定している女性  
(pregnant women, and women who are intending to become pregnant)
- ・ 豪州／ニュージーランド：妊婦や妊娠を計画している女性  
(pregnant women and women planning pregnancy)
- ・ 米国：妊婦や妊娠する可能性のある女性  
(women who might become pregnant, women who are pregnant,)

4. 複数の対象魚介類の摂食について

妊婦は一定期間内に複数の対象魚介類を摂食しているものと考えられる。平成 15 年 6 月の注意事項では、注意する魚介類とその摂食回数が示されている。仮に注意事項と摂食回数を示すのであれば、複数の種類の魚介類を摂食する場合の注意も促すべきではないか。

あるいは、点数方式とし一定の点数を上回ることはないように摂食するよう、注意を促すことを検討すべきではないか（別添参照）。

5. 一定期間の摂食量が耐容量を超えた場合について

ある週に注意事項に示す魚介類を食べ過ぎた場合には、翌週や翌々週において魚介類の摂食を控えることにより調整するといった対応方法を記載することが適当ではないか。

6. 水銀濃度が異なる類似の魚介類について

魚介類の水銀濃度は、その種類毎に大きく異なるが、一般には同じ種類のものと混同される懸念がある。例えば、マグロの中でもキハダやビンナガの水銀濃度は、クロマグロの 1 / 3 程度であり、クジラにおいてもヒゲクジラはハクジラに比べ水銀濃度は低い。

このような、特に注意を喚起する必要がない水銀濃度が異なる類似の魚介類について、マグロでは注意事項中に記載し、クジラでは Q & A に記載する方向で検討しているが、それ以外にどのような工夫があるか。

メチル水銀濃度を基に試算 (別添)

最も影響を受けやすい胎児を十分に保護できる魚介類の摂食方法(試算:案)

通常の食生活を送った上で、次の魚介類等については合計点数が1週間当たり10点以内となるよう摂食する。

(前提条件)

耐容量:食品安全委員会の食品健康影響評価に基づく値(2.0 μg/kg体重/週)

仮定1:他の魚介類からの水銀摂取はなしと仮定

仮定2:他の魚介類からの水銀摂取量を一日摂取量調査における魚介類からの水銀摂取量の半量と仮定

仮定3:他の魚介類からの水銀摂取を一日摂取量調査における魚介類からの摂取量と仮定

(魚介類)

魚介類	1週間当たりに摂食できるg数 (g/week)			1週間当たりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
キダイ	301.2	229.7	158.2	3.8	2.9	2.0	3	4	6
キンメダイ	186.3	142.1	97.9	2.3	1.8	1.2	5	6	9
クロムツ	320.7	244.6	168.5	4.0	3.1	2.1	3	4	5
ユメカサゴ	308.7	235.5	162.2	3.9	2.9	2.0	3	4	5
エッチュウバイカイ	204.3	155.8	107.3	2.6	1.9	1.3	4	6	8

(例)仮定2において、10点法で摂食した場合

①耐容量から求めた1週間当たりの総摂取可能量:2.0 μg/kg体重/week \* 55.5kg(妊婦体重)=111 μg/week

②仮定2における、検討対象以外の食品からの水銀摂取量5.08 μg/ヒト/day=35.56 μg/week

③検討対象魚介類からの摂取可能総量:①-②=75.44 μg/week

キンメダイ(1回:6点)+クロムツ(1回:4点)=0.532 μg/g×80g+0.309 μg/g×80g=67.28 μg<③

(カジキ)

魚介類	1週間当たりに摂食できるg数 (g/week)			1週間当たりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
マカジキ	288.9	220.3	151.8	3.6	2.8	1.9	3	4	6
メカジキ	147.0	112.1	77.2	1.8	1.4	1.0	6	8	11

(クジラ)

魚介類	1週間当たりに摂食できるg数 (g/week)			1週間当たりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
イシイルカ	267.8	204.3	140.7	3.3	2.6	1.8	3	4	6
コビレゴンドウ	66.6	50.8	35.0	0.8	0.6	0.4	13	16	23
ツチクジラ	142.0	108.3	74.6	1.8	1.4	0.9	6	8	11
バンドウイルカ	15.0	11.4	7.9	0.2	0.1	0.1	54	71	102
マッコウクジラ	141.6	108.0	74.4	1.8	1.4	0.9	6	8	11

(サメ)

魚介類	1週間あたりに摂食できるg数 (g/week)			1週間あたりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
ヨシキリザメ	283.1	215.9	148.7	3.5	2.7	1.9	3	4	6

(マグロ)

魚介類	1週間あたりに摂食できるg数 (g/week)			1週間あたりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
ミナミマグロ	256.7	195.8	134.9	3.2	2.4	1.7	4	5	6
クロマグロ	182.8	139.4	96.1	2.3	1.7	1.2	5	6	9
メバチ	180.5	137.7	94.8	2.3	1.7	1.2	5	6	9

(参考:その他のマグロ類)

魚介類	1週間あたりに摂食できるg数 (g/week)			1週間あたりに摂食できる回数 (80gで試算:回/week)			点数換算(10点/week法) (点)		
	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3	仮定1	仮定2	仮定3
キハダ	559.9	427.0	294.1	7.0	5.3	3.7	2	2	3
クロマグロの幼魚(メジマグロ)	535.7	408.5	281.4	6.7	5.1	3.5	2	2	3
ビンナガ	604.3	460.9	317.4	7.6	5.8	4.0	2	2	3
ツナ缶詰	909.2	693.4	477.6	11.4	8.7	6.0	1	2	2

(事務局注)

マグロの名称については、キハダはキハダマグロ、ビンナガはビンナガマグロ(またはビンチョウ)、ミナミマグロはインドマグロ、メバチはメバチマグロ(またはバチマグロ)、クロマグロは本マグロと同義である。